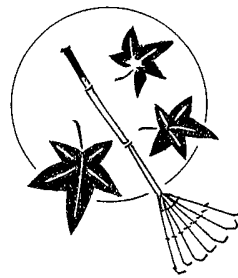


# 農業



平成25年11月号  
会誌 No. 1578

## 目次

### 巻頭言

中国の投植え移植……………大杉 立 3

### 論壇

大学と地域との連携について考えること……………納口るり子 4

### 農業懇話会

土地利用型農業の現状と展開方向……………梅本 雅 6

日本農業に求められる課題

農業構造変化と水田農業における規模拡大の進展

土地利用型大規模経営の形成過程

水田作経営の特徴と経営戦略

経営者の意識や経営戦略の変化

水田作経営の収益性の動向と現状

大規模化とコストダウンの可能性

今後の技術開発方向

質疑応答

### 地域セミナー

これからの北海道農業の展望と課題…………… 31

挨拶……………夏井 岩男 31

挨拶……………染 英昭 31

基調講演・……………久田 徳二 32

TPP

自民党の10年戦略

3つのヒント

食い改めよ

### 表彰農家訪問

新品種育成と苗の供給で日本のリンドウ生産をリード……………今西 英雄 48  
-長野県上伊那郡箕輪町に瀬戸堯穂氏を訪ねて-

### 農業・農村の現場から

都市近郊農業：消えゆくブドウ園と集う都市住民……………古谷 千絵 56  
「大阪ブドウ」産地 大阪府・南河内地域の現状と課題

### 世界の農業は今

ミャンマーの農業事情……………草野 栄一 62

統計情報…………… 67

平成25年産大豆の作付面積（乾燥子実）

農政情報…………… 68

大日本農会だより…………… 69

### 表紙写真説明

### はす洗い（群馬県館林市城沼<sup>じょうぬま</sup>）

群馬県館林市は、県の最南東部、県域が細く張り出したところにあり、東京の浅草から特急で60分の位置し、都心への通勤が可能などとなっている。市内には、城沼をはじめとして、多々良沼、近藤沼や茂林寺沼など多くの池沼が点在するなど、豊かな水資源と自然環境に恵まれ、多様な動植物の生息地となっている。城沼は、東西約3.8km、南北約0.2kmの東西に細長い沼で、周囲は約8 km、水深は約1.5mである。館林市の市街部を東西に流れる鶴生田川<sup>つるうだがわ</sup>を水源としている。名前のとおり、かつて館林城は、天然の要害としてこの沼を利用していた。

レンコンは、ここでは「はす」と呼ばれており、栽培も盛んな時期があったが、市の汚水が流れ込み、水質が悪化したために、衰退していった。生産量は激減したが、市内にある農産物直売所（邑楽館林農業協同組合経営「ぼんぼこ」）では、季節になると、地元産の人気農産物のひとつとなっている。

（写真提供：一般社団法人地域環境資源センター）